

新型コロナウイルス感染症対策に係る
知事と特別区長との意見交換議事録

令和 2 年 3 月 6 日（金）
於・都庁第一本庁舎 7 階特別応接室

〔開 会〕

○行政部長

これより、新型コロナウイルス感染症対策に関する特別区長と小池知事の意見交換を始めさせていただきます。それでは、冒頭、小池知事より一言お願いいたします。

○小池知事

おはようございます。お待たせいたしました。区長会の皆様方には色々ご協力いただいております。ありがとうございます。昨日足立区の方ですね、家族揃って陽性という例が出たという。このコロナウイルスについては、それぞれの地元でいろんなケースが生じています。

昨日おかげさまで約 63 億円の補正予算が、元年の最終補正になりますが、これが成立することができます。早速ウイルス対策とそれから金融支援ですね、観光業なども早速色々影響が出ているかと思っておりますので、その予算が成立をしたばかりでございます。令和 2 年度にも 330 億くらい補正予算を組んでおりますので、これまた引き続き、これは 13 カ月予算という立てつけで、安全ネットを敷いていこうということでございます。ぜひ皆様のところも様々なご事情がある方々にですね、都の金融支援なども使っていただけますようにお伝えいただければと思います。

それから、今週、来週が感染の急速な拡大を収束できるかどうか。昨日、国も中韓の訪日の方に対してですね、2 週間、一定のところ待つかというふうな例を出されまして、まあこの間でしっかりやっ払いこうという取り組みの表れかと思っております。

都といたしましても、3 月、一応 3 月 15 日を目途にですね、そこまでにあらゆることをやっ払いこうということで、皆様方にもご協力いただき、まあ学校、それから特別支援学

校も含めてでございますけれども、色々この間、急な対策を取っていただくことになっているかと思えます。特に、これから、卒業式、入学式など様々、特に一年間の中でも行事の多い時でございますので、そういったことを含め、現場としての様々なお声を今日うかがっておきたいと思えます。

それから、新型コロナウイルス対応緊急東京チームということで、緊急対応策を早急にとりまとめます。これは、国が予備費 2700 億を使って、対策を 10 日の日に出すということをおっしゃっておりますので、それを見ながら、東京都としてさらなる対策を打っていく、というそのためのチームでございます。とにかく、こういう事態を迎えて、都として全力で取り組んでまいりたい、そのためにも特別区長の皆様方ともしっかりと連携しながら進めていきたいと思っております。今日はその意味で皆様方からのご要望を伺えればと思っております。よろしくお願いいたします。

○行政部長

続きまして、特別区長会を代表いたしまして、会長の山崎江東区長からご発言をお願いいたします。

○山崎江東区長

おはようございます。まあこうした機会を早速作っていただきまして、本当にありがとうございます。各区の方には今日知事さんとお会いするという事で通知を出しまして、各区から様々なお願い、要望が集まりまして、それは取りまとめて後程資料として事務方に見ていただきたいと思うのですが、今回のコロナウイルスについては、それこそ国難ともいべき大変なことだと、オリンピックどころでなくなってしまうかもしれない、そういう心配もしております。これをいかに早く収束させるかというのが、国も、都も、区もそうですが、最大の課題であります。

今回の対応は国も色々やっていますけれども、東京都もいち早く様々な手当をしていただいて、大変ありがたく思っていますが。一緒にですね、都区が一緒にやっぱり力を合わせていかないと、これは本当に東京都の方針なりなんなり、我々の方は現場で直接住民と接していますので、色々な問題が直に耳に届くわけですし。そういった意味からも、区だけでは対応できない部分もあるし。是非ですね、知事と各区長が一体となって頑張らなきゃいけないと思っております。できるだけのことを徹底してやってですね、あんなにやらな

くてもよかったのに、と後で言われるのが私はいいいことだと思っています。

○小池知事

おっしゃるとおりだと思います。

○山崎江東区長

「そこまでやるのか」というようなことをですね、やはりやって。それで、「早く終わってよかったね」「被害少なくてよかったね」「あんなに行政が目くじら立てて、カリカリしなくてもよかったのに」と、そういう批判を受けるようなそういう体制を一緒に作っていかなくちゃいかんと思っているわけです。ぜひですね、後ほど副会長からもお願い、色々要望を出させていただきますが、いずれにしても都と区が、情報提供にしろ何にしろ様々な点で一体となって、力を合わせていく。我々も知事を先頭にですね、現場を抱える第一線部隊として現場で頑張りますので、都の方はみなさん知事を一つ盛り立てていただいて、しっかりカバーしていただいて。スピーディーに、そこまでって言われるくらいやるべきだと私は思ってますのでね、ぜひ一つ頑張ってくださいと思いますので、よろしくをお願いします。

○小池知事

ありがとうございます。

○行政部長

ありがとうございました。それでは、副会長の武井港区長からご発言をお願いします。

○武井港区長

先程、会長からもお話をいただきましたけれども各区からの意見要望も大変多岐にわたっております。それぞれの要望をぜひお聞きいただきたいと思います。私の方からは新型コロナウイルス対策の直接的な分野についていくつか申し上げたいと思います。

まず一つは、感染症の情報提供の充実・強化です。会長のお話にもありましたように、関係機関が情報を共有して、そして連携して取り組むということは大変大事なことでございます。また、多くの区民、都民に対しても正確な情報を迅速にお届けするというのが、

大変、今、求められていることだと思っております。ただ、多くの都民、区民は、マスクの情報に頼らざるを得ないという状況もございます。自分たちの地域の、明確な、また詳細な情報を必要としていると思います。そうした点から、感染者などの情報に加えまして、相談や検査体制や医療体制が、今どのような状況にあるのか、また、対策等に係る物資がどのような状況にあるのか等につきまして、明らかに、リアルタイムに、提供すべきだと考えております。

そして、現場や対策に当たっている医療機関、保育施設も含め、正確な情報を共有することが必要でございます。国や都からの信頼できる、正確な情報があると、役割分担しながら一致協力した対策が可能となります。また、都民、区民にとりましても、正確な情報をもとに都や区がどのような対策を予定しているのかということをお知らせいただき、不安が解消され、それぞれ個人的な対策に専念することにつながるのではないかと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

次に、相談、検査、医療体制に関することですが、多くの都民が検査の実施について不安を抱えています。混乱が生じないように、機動的な体制の確立や、検査基準の明確化などの対策が求められております。また、対策物資の充実等についても早急な対策が必要でございます。マスクやアルコールなどが、各現場で不足しております。供給体制の充実や、東京都の備蓄、また各区の備蓄の有効活用のためにも、今後の見通しや具体的な対策の明示が必要と考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長

ありがとうございました。最後に、副会長の成澤文京区長からご発言をお願いいたします。

○成澤文京区長

おはようございます。私からは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う課題について、お話をさせていただきます。

まず、知事肝いりのテレワーク等については、なかなか特別区、窓口業務が多いという事があって進めることができないでいますけれども、まああの「ピンチをチャンスに」という事だと思っておりますので、これを機に様々な課題について挑戦していきたいと思っておりますので、是非後押しをしていただきたい。時差出勤については、ずいぶん特別区でも今回の件

がきっかけとなって「進んでいるなあ」というのを実感しておりますので、これもさらに進めてまいりたい、と思っております。

職員が休業したり、ということもある訳ですけれども、休業補償等についても、国は「交付税対応だ」と言っていて、そうすると東京の自治体はすべてアウトという事ですから、緊急対策の自治体負担の問題というのは、知事は東京のトップとして、是非国に交付税対応ではないという対応を求めているなと思っております。

重複になりますけれども、学校や保育施設や障がい者施設等の「弱者」がいる施設における衛生資材の確保においては特段のご配慮を頂きたいと思ひますし、都の備蓄の提供も含めて、現場になるだけ近いところに出していただけるようお願いしたいと思ひます。

小中学校の休校に伴っては、様々な対応を各自治体で、東京都もそうですけれども、行っております。例えば、本来国が対象にしていない幼稚園も、私立を中心に閉めるところがずいぶん出てきておりますけれども、そうするとそこに通ってらっしゃる人たちが、認可外の保育施設を活用することが出てくる。法定価格上限が11,300円、この上限にあつという間に触れてしまうという家庭が出てきているようでして、上限越えの対応を国に求めている必要があるのかなというところがあるのかなと思ひます。また、例えば都型の学童が夜間遅くまでやっている、これの補助金の対象は12時間が原則になっていて、今は朝から都型学童を開けてくれていますけれども。そこが、経費の増額をしないと民間企業はついていけなくなる。都型学童の補助金については柔軟化が必要だということで、これは本当に求めていきたい。

また、中小企業への支援ですが、都でも緊急融資等も行っていたきたい。まあ各区でも緊急融資を行っていますが、この手続きの簡略化や例えば信用保証料の部分都为カバーしていく。区によっては、信用保証料まで手がいかないところもあるようなので、区の個別的な支援の状況を産業労働局の方で調べていただいて、区が行っている緊急支援についても、信用保証料分のカバーがあり得るのかなということで、かなり踏み込んだ対応をお願いしたい。

商店街チャレンジ支援、いわゆる旧元気を出せ！商店街事業、これも、コロナによって中止したイベント等も出てきていますが、昨年の台風19号と同様に個別の対応をしないと、商店街産業もうまくいかないと思ひますので、更なる対応をお願いしたいと思ひます。

また、東京はオリパラを控え、観光産業の影響もだいぶ大きいと思ひますので、特段のご配慮をお願いしたいと思ひます。

なお、これから各特別区では年度末、年始にかけて転入、転出が集中する期間でして、各区の窓口ではその何百という単位で1日にくる転入、転出が、クラスター発生の危険性が非常にあるということで、非常に危惧をいたしております。引っ越しに伴う様々な手続きで、これ全国で起きるわけですから、例えば特例的な対応で、住民基本台帳法から言えば、移動して1週間以内でしたっけ、法の決まりがありますけども、そこを今回に限っては弾力化するなり、特例的な対応ができるのかどうなのか、知事にご対応いただいて。クラスターが発生しないように分散化のための努力というのも、都から呼びかけていただければというように思っております。私からは以上です。

○行政部長

ありがとうございました。それでは知事からご発言をお願いいたします。

○小池知事

はい。現場を直接抱えて、そして都民、区民の皆さんに直接触れておられる皆様方からのご要望でございますので、大変リアルに受け止めさせていただきました。いくつか課題があろうかと思いますが、金融支援については先程もありましたように、手続き的にもですね、素早くできるような形を取れるように、担当の方に伝えておきたいと思っております。それから、区民の皆様の転出、特に入の方、転入の方だと思っておりますけど、これなどもそうですね、国、例えば国関係の届出で、税の話なども少し延ばすとかですね、国が措置を取って、国の法律に基づくものであるとか、こちらでできるものとか、色々ありますからちょっと整理をしていくというのが一つ。それから、私はここへきてですね、昨日も町村会の皆様とは、場所が島とか奥多摩ですからテレカンファレンスをやりまして。今日、この後は市長会の皆さんともテレカンファレンスでやります。あれは9人、9か所までこちらの機能では繋がりますので、またそういう形でも企業の皆様もかなりテレカンファレンスなどで、テレワークもそうでもありますけれども。ここへきましてそういうテレの部分ですね、それからネットを使う、これが急激に進んでいると。例えばテレワークや時差通勤などで今劇的にですね、路線によりますけれども、公共交通が今変化しているところでございます。言ってみれば、コロンブスの卵みたいな話が今どんどん出てきて、それから窓口で込み合うところにはですね、例えば「今どうなってますか」というのを見える化するようなところ、工夫をされておられる所もあるそうです。それから国の方にはですね、東京都は

不交付団体ということで、様々な今回の予備費の使い方などにおいても、東京都のような不交付団体に対してもしっかりと対応してくださいということは、すでに国の方にもお願いしております。それから、あと衛生関係でありますけれども、具体的にはマスクであります。これ都はですね、基本的に一般のマスクというのは備蓄の対象にはなっていないんですね。N95 などを含めて防護服っていうのは、今も 200 万単位で保有をいたしております。ということで、医師会などを通じて、必要なところにそれぞれ都内の医療施設の方にはですね、防護服も含めてもう配布もさせていただいておりますが。いわゆる一般のマスクっていうのは備蓄品の対象になっておりませんでしたので、都の方では基本的には保有はしていない。局によって仕事の内容で保有しているところもありますけれども、それはまさに現場用でございます。そこで、先日、3月1日の東京マラソンの時に用意していたマスク、これについてはですね、昨日の段階で良いんですね？

○多羅尾副知事

昨日の段階で、はい。

○小池知事

学校と医療施設の方に、2万枚ずつですけれども提供させていただいておりますが、色々今、それぞれのところで確保できるような工夫もいたしておりますので、必要なところにてできるだけ、都としても確保したものをこれからもお届けしていきたいと思っております。

そういうことで、防災備蓄の品の在り方なども含めましてですね、しっかりとこれからも、この間対応していきたいと思っております。いずれにしましても、集中期間としてですね、しっかりと皆さんと連携してやっていきたいと思っておりますので。もう「お花見もダメかよ」と言って、皆さんとともがっかりされるんですが、お花を愛でいただいても宴会の方はご遠慮いただきたいということで、お願いをしております。

検査の体制等も含め、情報の発信でありますけれども、専用のサイトも作りました。これは汎用性のあるプログラムになっておりまして、これはそれぞれ、港区、江東区、このシステムをそのまま数字を当てはめることによって、一覧性のあるデータを提供できるようになっております。今、システム業界ではそれが話題になるくらい新しい方法でやっております。ちょっとお見せしますと…（タブレットを見せる）。ぱっと何件今出ている、

どれだけの方が利用されていて…など、都として保有しております…。(タブレットを見ながら) こういう形で、それぞれ都の数値がぱっとわかるようになっていて。ここにそれぞれの区の数値を入れれば、区としての日々の動きとか累積とか出るようになっております。宮坂副知事の方に…。

○成澤文京区長

すごく評判良いですね。

○小池知事

ええ、これぜひ。文京区版ができ、港区版ができ、江東区版ができ、ただここにこう当てはめていくだけで出てくると。

○山崎江東区長

カスタマイズできるということですね。

○小池知事

はい。こういったこともしっかり勉強して、共有できるものはできるだけ共有して、そして、情報は都民、区民の皆さんにも、という形を早急に、さらに整えていきたいと思っております。

○山崎江東区長

よろしくお願いします。

○小池知事

一杯やるべきことがありますけれども、こういう時だからこそできることもあるかと思えます。どうぞよろしくお願いします。頑張りましょう、これから。

○行政部長

ほかに出席者の皆さんからご発言があれば。

○成澤文京区長

15日という一つの区切りがあるじゃないですか。あれの延長はどのタイミングで考えるのですか。

○小池知事

そうですね。それも一つの課題でありますけれども、まさしく日々の動きを見ながら、ここは判断することになろうかと思えます。いろんなイベントを抱えていらっしゃるということも重々承知をしておりますので、そこも含めまして。

○成澤文京区長

都が、10日の国の方針を受けるなりなんなりで、都が判断されると思えますけど、なるべく早く区市町村にも。

○小池知事

そうですね、はい。

○山崎江東区長

うちなんか、30日までみんな一切駄目と。

○武井港区長

やはり私達は、都の判断なり、その考え方というのを非常に参考にしているところがありますので、分かりやすく、こうこうこういう状況の中ですので、こういう判断をしましたというのを。それを受けて、我々も区民の皆様にお伝えしていきますので、あわせてよろしく願いいたします。

○行政部長

これで意見交換を終了させていただきます。本日はご多用のところ、どうもありがとうございました。

[閉 会]